

障害の有無に関わらずすべての人が文化芸術にアクセスでき、参加し、楽しめるように。COZY TOWN バリアフリー映画会は“良い作品”を“誰もが”楽しめる月1回の映画鑑賞会です。そのために COZY TOWN バリアフリー映画会ではつぎの取り組みを行います。

1. すべての作品を日本語字幕付で上映。音声ガイドもイヤホンから聞いていただけます。
2. 自由席です。車いすの方、ほじょ犬をおつれの方も好きな席をお選びいただけます。
3. 彦根駅から上映会場まで誘導が必要な方はスタッフが送迎いたします。
4. トークショーや茶話会など作品について語らう場づくりをします。
5. 良い作品を選び、お客さまの鑑賞をサポートするプロフェッショナルによって運営します。

How to enjoy barrier-free films...

バリアフリー映画の楽しみ方



「音声ガイド」

場面や人物の動きなど、目から入る情報を言葉で説明したナレーションです。音声ガイドは UDCast 方式に対応しています。UDCast アプリ(無料)をインストールしたスマートフォン等の携帯端末に作品のデータをダウンロードし、イヤホン



アプリをインストール!
(iOS、Android 対応)

を接続しておもちください。UDCast についての詳細、動作確認は、公式サイト(https://udcast.net/)をご確認ください。映画会当日、会場でもアプリの操作サポートをいたします。※スマートフォンをお持ちでない方には端末の貸し出しをいたします。台数に限りがありますのでお申し込みの際にお知らせください。

※UDCast は Palabra 株式会社の登録商標です。

「バリアフリー字幕」

セリフだけでなく話者名や効果音、音楽など、耳で聞こえる音声情報を文字化した字幕です。字幕はスクリーンに表示されます。

「駅からの誘導」

お客さまのご要望に応じて彦根駅 (JR、近江鉄道) からスタッフが誘導いたします。誘導をお申し込みの方には集合場所や時間について改めてご連絡いたします。

これからのバリアフリー映画会 (予定)

9月9日(土) ケイコ 目を澄ませて
10月14日(土) アイネクライネナハトムジーク
各回 14時上映開始
会場 アル・プラザ彦根4階 COZY TOWN

12月には、COZY TOWN バリアフリー映画会1周年企画を計画中です。どうぞお楽しみに。

<チケット>

■前売券取り扱い

アル・プラザ彦根サービスセンター

■予約 (当日精算)

電話、メール、フォームからお申込みください。

URL forms.gle/1ydFX7Gi8UcYgHGUA



お申込みフォーム

※当日券は席に余裕があるときに限り販売します。

【お申込み/問い合わせ】

COZY TOWN 芸術文化活動支援センター

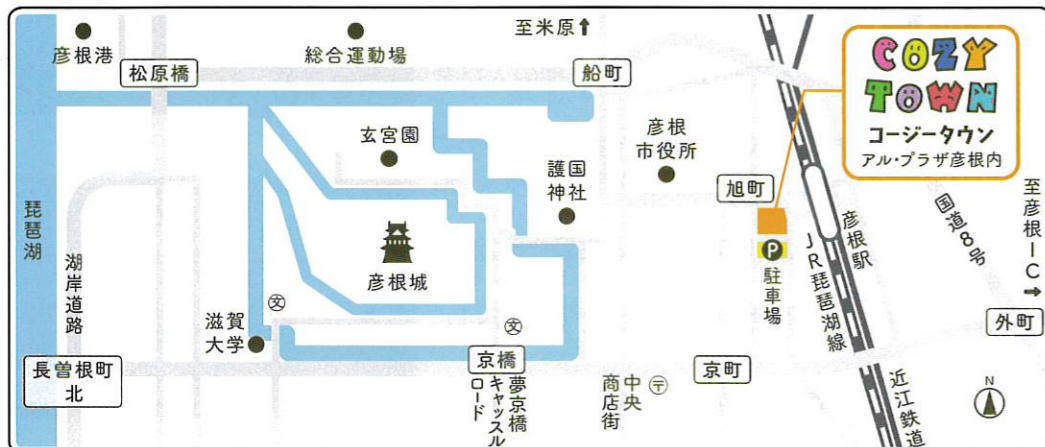
TEL.0749-21-6350

FAX.0749-21-6205

✉ cozytownglow@gmail.com

社会福祉法人グロー 法人事務局地域共生部

TEL.0748-46-8100



<会場アクセス>

●彦根駅 (JR、近江鉄道) 西口すぐ

●アル・プラザ彦根立体駐車場は有料です。入庫から2時間無料、以後1時間につき100円 (上限平日500円、休日700円)。

夏のバリアフリー-映画祭

2023年

8月19日(土) ~ 20日(日)

バリアフリー-日本語字幕・音声ガイド付

バリアフリー-日本語字幕はスクリーンに表示されます。音声ガイドはアプリUDCast (ユーディーキャスト) からご利用いただけます。(貸出端末もあります)

だれでも楽しめる月1回の映画会
8月は2日間開催します!

子どもが楽しめるアニメもあるよ! 点字を学ぶワークショップも開催します



8月19日

10:30~12:00 点字ワークショップ
「身の回りにある点字を調べよう」

13:30~ 映画 「ぼくらのよあけ」

16:10~ 映画
「子供はわかってあげない」

くわしい内容は中面をごらんください。

8月20日

10:30~ 映画 「ゆめパのじかん」

13:30~ 映画
「東京干潟」 「蟹の惑星」
村上浩康監督作品2本同時上映!

16:25 ~ 17:25
村上浩康監督トーク



カニを撮影する村上監督

<入場料> ※障害のある方の介助者1名無料
※未就学児無料

映画1作品	500円
東京干潟 / 蟹の惑星 セット	800円
映画5作品セット	2000円

★中学生以下	
映画1作品	300円
東京干潟 / 蟹の惑星 セット	500円

<会場>

アル・プラザ彦根4階
COZY TOWN (彦根駅西口すぐ)

8月19日 (土)

点字ワークショップ

「身の回りにある点字を調べよう」(定員15人)

点字は視覚に障害がある人のための文字で、文字や数字を点で表して指でさわって読みます。ワークショップでは、私たちの回りにある点字や目の不自由な人のための工夫をさがして、どのように役に立っているか考えます。点字を打つ体験もします。

- どなたでも参加できます。
- 参加費は無料です。
- 8月16日までにお申込みください。

10:30~12:00

講師: 県立視覚障害者センター

参加無料

<要申込>



「ぼくらのよあけ」(120分)

13:30 上映
(13:10~受付)

西暦2049年、夏。阿佐ヶ谷団地に住んでいる小学4年生の沢渡悠真は、間もなく地球に大接近するという“SHⅢ・アールヴィル彗星”に夢中になっていた。そんな時、沢渡家の人工知能搭載型家庭用オートボット・ナナコが未知の存在にハッキングされた。「二月の黎明号」と名乗る宇宙から来たその存在は、2022年に地球に降下した際、大気圏突入時のトラブルで故障、悠真たちが住む団地の1棟に擬態して休眠していたという。その夏、子どもたちの極秘ミッションが始まった。

キャスト/杉咲花、悠木碧、藤原夏海、朴璐美
監督/黒川智之 原作/今井哲也

©今井哲也・講談社/2022「ぼくらのよあけ」製作委員会



「子供はわかってあげない」(138分)

16:10 上映
(15:50~受付)

高校2年、水泳部女子の美波(みなみ)はある日、書道部男子のもじくんととの運命の出会いをきっかけに、幼い頃に別れた父親の居所を探しあてる。何やら怪しげな父にとまどいながらも、海辺の町で夏休みをいっしょに過ごす……。心地よい海風。爽やかに鳴る風鈴。…超能力!?そして、初めての恋に発狂しそう! お気楽だけど、けっこう怒濤の展開。誰にとっても、宝箱のような夏休み、はじまりはじまり~。

キャスト/上白石萌歌、細田佳央太、千葉雄大、古舘寛治、斉藤由貴、豊川悦司
監督/沖田修一

©2020「子供はわかってあげない」製作委員会 ©田島列島/講談社



8月20日 (日)

「ゆめパの時間」(90分)

10:30 上映
(10:10~受付)

「ゆめパ」は子どもたちみんなの遊び場。約1万㎡の広大な敷地には、子どもたちの「やってみよう」がたくさん詰まっています。手作りの遊具で思いっきり遊ぶ子どもたち。一緒にどろんこになっている親子。くるくると踊る子。小さな子どもを連れた自主保育のグループ。ゆめパにはいつも子どもと子どもに関わる大人が集まっています。

ゆめパの一角には「フリースペースえん」があり、学校に行っていない子どもたちが自分の「好き」をあたためています。安心して、ありのままの自分で過ごせる場所で、虫や鳥を観察したり、木工細工に熱中したり、ゴロゴロ休息したり。でも、時には学校や勉強のことが気になる子も……。新しい春を前に、一人の子が自身の将来を考え始め……。子どもも大人もみんなが作り手となって生み出される「居場所の力」と、時に悩みながらも、自ら考え歩もうとする「子どもの力」を描き出したドキュメンタリー。

●川崎市子ども夢パーク <https://www.yumepark.net/>

監督・撮影/重江良樹



2本同時上映! 上映後、村上浩康監督トークイベントあり

「東京干潟」(83分)

13:30 上映 ※途中休憩あり
(13:10~受付)

多摩川でシジミを獲るホームレスの老人。彼は捨てられた十数匹の猫を殺処分から救うため、日々世話をしながら干潟の小屋で10年以上暮らしている。80代半ばと思えない強靱な肉体を持つ老人は、シジミを売ったわずかな金で猫のエサと日々の糧を得ている。

彼は素手で漁をする。それはシジミと共存していく為に、成長途中の稚貝は絶対に獲らないと自ら厳しく決めているからだ。しかし近年、一部の人々により無計画な乱獲が始まり、シジミの数は激減していく。

映画は、変わりゆく環境の中で懸命に猫たちと生きる老人の姿を描くと共に、彼の波乱に満ちた人生へも分け入っていく。

炭鉱町に生まれ、返還前の沖縄で米軍基地に憲兵として勤務し、本土に帰国後、建築関係の会社を起業し、バブル期の東京の街を作りあげてきた男の人生。

2020年のオリンピックを目前に控え、干潟には橋が架かり、沿岸には高層ホテルが建てられる。変わりゆく東京の姿を彼は複雑な思いで見つめる。

昭和から平成、そして令和へと時代が移ろうなかで、都市の“最下流”多摩川の河口から、一人の人間の生き様を追いながら、環境破壊・高齢化社会・格差問題・ペット遺棄など、様々な日本の現在(いま)を浮き彫りにする。



「蟹の惑星」(68分)

多摩川河口の干潟は狭い範囲に、多くの種類のカニが生息する貴重な自然の宝庫である。大都会の中で、これほどのカニが見られる場所はかなり珍しい。

吉田唯義さんは、ここで15年に渡って独自にカニの観察を続けている。数日おきに干潟を訪れては、カニたちの生態を調べ記録しているのだ。

吉田さんは誰よりも多摩川のカニに詳しいが、その視点はとてもユニークで、他の人が考えつかないような方法でカニたちの生態を調べている。

映画は吉田さんと干潟をフィールドワークしながら、カニたちの驚くべき営みを見つめていく。カメラはカニたちに限りなく接近し、肉眼では決して捉えられない世界を映し、迫力あるフォルムと美しい色彩が画面いっぱいに広がる。

そして小さなカニたちの営みが地球や月など、宇宙とも結びついていることを解き明かし、さらには戦争や震災が与えた現実の問題までを描き出す。

身近な自然に目を向けることの大切さと、都市の中にある別世界を描く全編“カニづくし”のワンダームービー。

監督・撮影・編集/村上浩康

©TOKYO HIGATA PROJECT



「蟹の惑星」

